

「公益財団法人 衣笠繊維研究所 創立10周年記念誌」

発刊のご挨拶

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

おかげさまで公益財団法人 衣笠繊維研究所は、2022年4月をもちまして創立10周年をむかえました。これは、諸先輩各位をはじめ、ひとえに皆様方の温かいご支援とご協力の賜と、心より厚く御礼申し上げます。

「公益財団法人 衣笠繊維研究所」は、2012年（平成24年）3月27日京都府知事から認可され同年4月1日に文部省所管「財団法人 衣笠会」から移行し、新たに発足しました。前身の「財団法人 衣笠会」は、1950年（昭和25年）11月、独立した法人として半世紀におよび先人から受け継いだ多くの財産と言うべき礎をもととして運営してきました。この間、多くの諸先輩のご努力により繊維に関する研究に多大のご支援をいただきました。

その成果は、「衣笠会 繊維研究所報告」の公表、書籍発刊、青少年への繊維学の啓蒙、「衣笠会館」の一般公開などに結び付き社会的貢献を続けることが出来ました。

当財団の定款には、「繊維学とその基礎科学領域の研究、教育および普及繊維に関する歴史的遺産の継承および多目的利用を図ることにより、広く京都府の繊維産業文化に寄与貢献すること」と規定しています。

現在、新しい衣文化がもてはやされる時代の中で古いものは、どんどん捨てられ大切なものを、きちんと総括せず、残すべき衣文化が捨てられていることを我々の共通認識とし、今後も、繊維・織物等に関して、当財団が果たすべき業績第一主義ではない調査・研究を続け、繊維分野に寄与貢献したいと考えています。

今回の記念誌では副題として「近畿地方の天然繊維産業とその源流」を掲げ、衣笠繊維研究所発足以来、活動されてきた前代表理事 古澤 壽治氏に「日本の産業革命を推進した綿と蚕糸」、前理事 根岸 明子氏に「近畿地方の織物」の執筆をお願いしました。

この副題は、今回の記念誌発刊に当たり、従来の自主的研究のうえに、膨大なそして詳細な資料（統計・現地調査等）に基づき考察を加え執筆していただいた古澤 壽治前代表理事が当財団に託された思いとも一致するものと考えています。

併せて、教育研究・繊維文化の継承に寄与している活動の拠点である衣笠会館の歴史等についての取り纏めを掲載しています。

今後とも何卒ご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

2023年3月吉日

（公財）衣笠繊維研究所
代表理事 井上 佳彦